

JPDA 1月定例理事会議事録

日 時：平成30年1月31日（水）午後1時30分～午後5時

場 所：文京シビックセンター(区民会議室) 5階 会議室 A

東京メトロ丸ノ内線・南北線「後樂園」駅前

出席者：理事24名中23名（加藤芳夫、伊藤 透、青木（入江）あずさ、井上 聡、
牛島志津子、畝野裕司、江藤正典、小川裕子、小川 亮、加藤（桑）和美、
加藤憲司、小原 司、佐野暁子（文胡）、竹内清高、中越 出、永島 学、
永田麻美、中森恭平、信藤洋二、藤田 隆、森 孝幹、八木勇達、山崎 茂）
欠席届（梅原 真）
監事2名中2名（池田 毅、時田秀久）

議事の経過：

定款第31条(議長)により加藤理事長を議長に選出し、議長は直ちに本日理事会出席者20名を確認、定款第32条(決議)による出席者が過半数に達していることを確認し、定款第34条により議事録署名人が加藤芳夫理事長、伊藤透副理事長、池田毅監事、時田秀久監事の4氏であることを確認し、議事に入る。（決裁事項の議案号数はゴシック。）

第1号議案 新入会員入会審査の件

本日の理事会までに入会申込み法人1社、個人5人があり、定款6条（会員資格の取得）並びに会員規定に基づき入会審査を行い、下記法人1社、個人5人の入会を承認した。

(1)法人会員（1社）

<東日本>

アサヒ飲料株式会社（推薦者＝時田 秀久）

(3)個人会員（5人）

<東日本>

池端 慶（いけはた けい）（推薦者：鈴木 智晴）

轟 理歩（とどろき りほ）（推薦者：時田 秀久）

千葉 康平（ちば こうへい）（推薦者：石浦 弘幸）

小林 洋已（こばやし ひろみ）（推薦者：原田 祐助）

大上 一重（おおうえ かずしげ）（推薦者：山崎 茂）

第2号議案 退会承認の件

本日の理事会までに退会届を提出した個人会員5人の退会を承認した。

(1)個人会員（5人）

<東日本>

天野 和俊（あまの かずとし）（29年12月に法人会員として入会したため）

[29年11月末退会希望]

小比類巻 蘭（こひるいまき らん）

（一身上の都合により川路ヨウセイデザインオフィスを退社したため）

[29年11月末退会希望]

安富 律之（やすとみ のりゆき）

（前社を退職してからJPDAの行事への参加が困難になってきたため）

[29年12月末退会希望]

芳賀 雅丈（はが まさたけ）（パッケージデザインの業務より離れる予定のため）

[29年12月末退会希望]

川本 雄一（かわもと ゆういち）（一身上の都合により）

[30年1月末退会希望]

第3号議案 休会承認の件

本日の理事会までに休会届を提出した個人会員3人の休会を承認した。

(1)個人会員（3人）

<東日本>

碓井 健司（うすい たけし）（病気療養中のため）

[30年1月～12月までの間]

川島 英芳（かわしま ひでよし）（病気療養中のため）

[30年1月～31年12月までの間]

中澤 亜衣（なかざわ あい）（出産に伴う産休・育休取得のため）

[30年1月～31年12月までの間]

第4号議案 協会名義使用承認の件

本日の理事会までに下記1件の協会名義使用の依頼がありこれを承認した。

(1)後援名義の使用依頼

・「The Day Beyond the KU/KAN Design」

（シンポジウム：2月15日（木） 東京ドームシティ ギャラリーアーモ）

主催：空間デザイン機構

- ・一般社団法人 日本空間デザイン協会
- ・一般社団法人 日本商環境デザイン協会
- ・公益社団法人 日本サインデザイン協会
- ・一般社団法人 日本ディスプレイ業団体連合会

第5号議案 正副理事長報告

加藤理事長、伊藤副理事長から以下の報告があった。

<加藤理事長報告>

- ・ 11/11 しまんとデザイン会議にパネラーとして出席
- ・ 11/16 六耀社 次期社長（この1月より新社長）との面談
加藤理事長より、「六耀社の経営母体の変更により、この1月より新社長になった中川氏から、現在赤字になっているJPDA関連の事業を少なくとも収支トントンになるように改善していきたいとの申し出があった。六耀社としては、2020年までは現在の進め方を踏襲するのはやむを得ないとの判断であるが、今のままの形では大きな改善は見込めないので、出版、コンペが一体になって抜本的な改革案を検討すべき時期にきている。担当委員会の方々も厳しい状況にあることをしっかりと認識してほしい」との補足があった。
- ・ 11/27 JPDAエクササイズコミュニケーションに出席
渡邊事務局長より、来期はJPDAの事業からはずしたいとの発言があった。
- ・ 11/30 世界ブックデザインレセプションに出席（印刷博物館）
- ・ 12/2～5 アスパックウィーク（審査会・フォーラム・レセプション・原研哉講演会・東京展覧会のテープカット）
- ・ 12/6 読売新聞社 取材（事務局報告の最後にその記事のコピーあり）
- ・ 12/12 日本ジュエリーデザイナー協会のレセプションに出席
- ・ 12/14 おいしい東北贈賞式に出席
- ・ 1/12 アスパック大阪展覧会のテープカット
- ・ 1/19 福島県農林水産部農産物流通課主催のP. デザインセミナーで講演
福島県ではデザイナーと生産者のマッチング（パッケージなどのデザイン制作費を生産物で支払う）という面白いビジネスをスタートさせており、それを継続していきたいとの意思があるので、再度事務局を訪問して打合せをもつ予定である。

- ・ 1/24 アスパック反省会
- ・ 1/25 コンペティション委員会
- ・ 1/26 出版委員会
- ・ 2/1 日経新聞社 取材予定
- ・ 2/2 JPC 審査会に出席予定
- ・ 2/8 六耀社打合せ予定
- ・ 2/15 空間デザイン協会シンポジウムに出席予定
- ・ 2/20 山梨県産業技術センター主催の P. デザインセミナーで講演予定

<伊藤副理事長報告>

- ・ 11/11 しまんとデザイン会議に出席
- ・ 11/16 六耀社 次期社長との面談
- ・ 12/2～5 アスパックウィーク（審査会・フォーラム・レセプション・
原研哉講演会、展覧会）

・ 12/12 ADC授賞パーティー

・ 12/20 国内交流委員会

・ 12/22 六耀社打合せ

・ 1/11 東日本委員会

・ 1/12 国内交流委員会

来年2019年のデザイン会議を賀詞交歓会と同時期に開催する計画があり、現在国内交流と東日本の両委員会が一緒になってその内容を検討しているとのこと。

・ 1/19 JIDAデザインミュージアムセレクション フォーラム

・ 1/24 アスパック反省会

・ 1/26 ギフト力向上委員会セミナー、出版委員会

・ 1/29 デザイン&テクノロジー協会セミナー

・ 1/30 D-8運営会議

・ 2/8 六耀社打合せ予定

・ 2/15 空間デザイン協会シンポジウムに出席予定

第6号議案 平成30・31年度役員選挙結果報告と今後のスケジュール

資料に基づき渡邊事務局長より、平成30・31年度の役員選挙開票結果の報告があった。

- ・ 今回の役員選挙は有権者数782人、得票総数268票、投票率34.3%（前回は40.5%）。
- ・ 理事定数は22人（最大25人）、監事定数は2名（最大3名）であるが、今回の役員候補選定のポイントは以下の2点。

(1) 東日本個人会員の理事定員は9人であるが、今回は9番目の得票を得た会員が2人あった。平成26・27年度の理事選挙でも同様のケースがあり、そのときの判断（区分違いの得票が多かった人を理事に選出した）に倣い、区分違いの得票が2票あった中越氏を当選とした。

(2) 中越氏を理事候補としたときに、前回の選挙結果と同様、デザイン業とその他産業が同数の11人となり、公益性での調整（その他産業を2人増やす）が必要となった。

その結果、その他産業で上位の得票を得ていた東日本法人枠の鈴木智晴氏と東日本個人枠の加藤芳夫氏が繰り上げ当選となり、理事候補総数は今期と同様の24人になる。今回は東日本法人枠で高田知之氏、鈴木智晴氏が、また、西日本個人枠で三原美奈子氏が新たに当選となった。

なお、開票結果の詳細については、後日、平成30・31年度役員選挙開票結果公報が全会員宛てに郵送される。

また、5月の総会までの具体的なスケジュールは別紙のとおりである。

第7号議案 委員会報告

<決済事項>（以下の3件）

○教育（アスパックウィーク）

永田理事よりASPaC WEEK 2017の中の担当カリキュラムについての結果報告があった。

- ASPaC Weekの中の12月4日・5日の2日間を教育委員会が担当。4日（月）の午前中は永田からサントリーについて、（株）明治の井田さんから明治チョコレートについて語る2本の企業セミナーを開催した。参加者はASPaC入賞者22名と通訳、関係者4名の26名であった。その日の午後は展覧会委員会のワークショップにバトンタッチをして終了。

翌日の5日（火）の午前中は教育委員の案内でASPaC入賞者22名に凸版の印刷博物館を見学していただいた後、午後は銀座の日本デザインセンターでJPDA主催の原研哉氏のASPaC Week記念講演「原研哉の仕事」に合流してもらった。

- 原氏の講演会はJPDAの事業であったため、それについての収支決算報告（公益会計）があり、収入257,000円、協会補助0円、支出246,622円の収支差額+10,878円を承認した。

開催日時：平成29年12月5日（火） 15:00～16:30

場 所：日本デザインセンター

参加人数：95名（会員70名/一般23名/学生2名）

当日は日本デザインセンターの社員の方約10名も加わり、100名を越える参加者で会場は満員盛況であった。

- この3つの中では、やはり原氏の講演会が最もインパクトが強かったようで、ASPaC入賞者へのアンケートでも非常に高い評価をいただいている。今回の講演会を期に日本デザ

インセンターが法人会員に入会したので、原氏の今後の協力も期待できると思う。

- ・これからのASPaCに関しての教育委員会の活動については委員会内でも議論したが、今年のように3つの全く異なるプログラムを2日間に同時進行させるのは10名の教育委員にとって非常に負担が大きく、ASPaCの活動を行いながら、いままでのワークショップを中心とした教育委員会の活動を同時にこなしていくのは無理だという結論であった。

○総務（JPDAエクササイズコミュニケーション）

渡邊事務局長より「エクササイズコミュニケーション」についての法人会計の収支決算報告があり、収入692,400円、協会補助 0円、支出692,400円、収支差額± 0円を承認した。

開催日時：平成29年12月5日（火） 15:00～16:30

場 所：東京ドーム&後樂園飯店

参加人数：80名

○西日本（しまんとデザイン会議）

梅原理事欠席のため、森理事より資料に基づき「しまんとデザイン会議」についての活動報告があった。

その後、渡邊事務局長より以下の収支決算報告があり、公益会計：収入1,796,500円、協会補助 699,600円、支出2,498,300円の収支差額 -2,200、及び、法人会計：収入841,500円、協会補助 0円、支出839,140円の収支差額 +2,360円を承認した。

渡邊事務局長より「今回は初めて（公財）高知県観光コンベンション強化からの支援（金銭的支援と地元の日本酒の提供）をいただいたことがありがたかった。今後も地方で開催するイベントがあるときは事前に支援の有無を調べておきたい」というコメントがあった。

<報告事項（資料あり）>（7件）

○アーカイブ

入江理事から資料に沿って以下の報告があった。

- ・昨年12月からJPDAのホームページにアーカイブ委員会のサイトが立ち上がった。次年度は個々の作品情報の充実化を進めていきたい。

（信藤理事からも「大賞、金賞の過去の作品を集めているが、なかなか集められていないのが現状。未収集の作品が多いサントリーさんなどの企業には、今後、現物提供や情報提供などの協力をお願いしたい」との補足があった。）

- ・次のテーマは昨年故鹿目氏からスタートさせた「声のアーカイブ※」の拡大である。2018年、2019年に資料にある8名のデザイナーに対し取材していきたいと考えている。費用は一人あたり10万円とみているが、それを各年度の予算に反映させていくつもりである。

※「声のアーカイブ」とは著名デザイナーにデザインに対する思いや制作にまつわるエピソードなどをご本人の声で語っていただき、一人あたり20分程度の映像とテキストで記録・保存してJPDAの資産とする活動のことであり、映像は編集してメディアに流

したり、展覧会会場等で活用していくことを考えている。

加藤理事長からは「予算が厳しい状況にあるので、事務局と十分相談してほしい。また、著名なデザイナーなので、インタビュー終了後セミナーなどを開催して収益を上げることも検討してはどうか」というコメントがあった。

入江理事からは松永氏と川上氏の「ボトルとグラフィックのマッチング」をテーマとした対談などは面白いと思うという発言があり、加藤理事長以下多くの理事から、是非考えてほしいという意見が多く聞かれた。

○インターネット

中越理事から配布資料に沿って、昨年11月からの各委員会サイトの更新状況、及び、2018年1月30日現在のトップページの報告と「会員専用ページのご案内」を全会員に送ったことの報告があった。

加えて、「11月の理事会でもお話ししたが、最終情報確定までに時間がかかるイベントについては、段階的に確定情報を発信するような早めの掲載方法をお勧めしたい」との発言があった。

加藤理事長からは「インターネットは情報発信の手段としてますます重要性が増してきており、単なるインターネットというハード面だけではなく「インターネット広報」のような位置づけが必要になってくるのではないだろうか」との提言があった。

○コンペティション

小原理事から資料に沿って以下3点の報告と新設賞についての討議要請があった。

- (1) 会員審査員（約40名の一次審査員と12名の二次審査員）の選挙を、JPDAのホームページやFBを通じて、2/7～3/6の間全会員に案内していくこと（審査員の決定は3月の中～下旬の予定。）
- (2) 特別審査員（4名）の候補者の案内
- (3) 審査フローの改訂について（前回案内した一次審査に加重ポイント制を導入することにより、二次審査の「予備審査」をなくすこと）

新設賞は山崎理事から提案のあった「鹿目賞」と加藤理事長から提案のあった「JPDA会員賞」の二つであるが、小原理事からは、「コンペ委員会で議論したが、『その意義・作品のイメージ、また、選定方法・選定基準を明確にしていく必要がある。それらがはっきりしていなければただ賞が増えるだけで終わってしまうのではないか』と懸念する意見が多く見られた。これに関して理事の皆さんからのご意見をいただきたい」という発言があった。新設賞に関する議論は以下のとおり。

- (1) 「JPDA会員賞」を新設したいという加藤理事長の意図は、ここ数回会員以外の受賞が多かったため、会員に対するメリットの一つとしてアピールしたいというところにあるが、各理事より、審査時に会員からの作品であることを明記しなければならないこと（現在

は明記していない)、賞のランク・位置づけをどの辺にするか、コンペの公益性に抵触しないかどうか等、課題も多く、継続検討事項となった。

また、信藤理事より「会員賞というよりもロングセラー賞としてはどうか」との提案もあったが、その場合は個人ではなく法人が対象となるので難しいのではないかと反論が出た。

- (2)「鹿目賞」については提案者の山崎理事からその主旨の説明があったが、池田監事からの「個人名がつく賞を一般の応募によるコンペティションで選定してよいのか、賞の設定基準、選定方法を含め別枠で検討すべきではないか」との指摘に加え、多くの理事からも反論が多かったため、今回のコンペティションの賞に加えるのではなく、別途検討を進めることとなった。

○展覧会

中森理事から資料に沿って2018年10月～12月、京都と東京で開催する「創作展 感じるパッケージデザイン展」についての以下の報告があった。

- ・前回の理事会に提案したとき、もう少し解りやすい言葉を入れてはどうかとの指摘があったので、『～言葉はなくても伝わる～』というサブコピーを追加してみた。
また、前回の理事会では決まっていなかった東京会場が渋谷ヒカリエ（12/18～12/30）に決定した。今回は前回制作した会員図録は作らずに、WEBの案内サイトを充実させていく予定である。
今回のキービジュアルは資料にあるとおりだが、前回同様の、開くと案内ポスターにもなる4つ折りの募集要項を3/15に発送する予定である。手作り試作品お返しするので確認いただきたい。
- ・その後の議論で、「テーマはわかりやすい」という肯定的な意見があった一方で、「触ることができない、音を発してはいけないという制約があり、サブコピーの表記がわかりにくい」、「印刷のスケジュールもわかるが、委員会で再考して、3/15は募集要項の発送はせずにサイトからの案内にとどめた方がよいのでは」等ネガティブな意見が多く結論に至らなかったため、加藤理事長からの指示で「理事会ではこのような反対意見が多かったということを踏まえて、スケジュールも考慮しながら、展覧会委員会で結論をもってほしい」ということになった。（次回3月の定例理事会で報告）
- ・最後に小川裕子理事から「2016年に1回目の創作展を行ったが、今回、また2020年と当初の計画通りに3回の創作展を成功させたい。今回は会場の問題から100名限定となるが、奮って応募していただくようよろしくお願いいたします」というコメントがあった。

○西日本

井上理事から資料に沿って2月16日（金）に大阪のメビック扇町で開催する2018年西日本新年交流会と勉強会「現代美術二等兵の駄美術とデザイン」についての案内があった。なお、

今回は伊藤副理事長が参加するとのこと。(詳細は資料参照)

○デザイン保護

小川亮理事から2月16日(金)に東京日本橋のDIC大会議室で開催される体験型セミナー「そのデザイン 本当に提案して大丈夫？」の案内があった。

- ・当日、参加者にはパソコンを持参いただき、試作されたボトルに類似品がないかどうかを確認するための、ボトルデザインの検索モデル活用のポイントを特許庁の外郭団体の講師が紹介するという実践的なセミナーである。

○出版

山崎理事から2018年5月に発刊される「PACKAGE DESIGN INDEX 2018」の最終結果について以下の報告があった。

- ・2018年版は169社、382ページの掲載となった。応募は順調だったのだが、クライアントの都合で掲載を辞退するなどのドタキャンがあり、前回2016年と比較すると、全体で▲15社、▲18ページの結果で終了した。

<報告事項(口頭)>(3件)

○調査研究

加藤憲司理事から以下の報告があった。

- ・1/19の委員会で2018年の活動テーマについて議論し、地域デザインの研究や会員調査の継続など53の案がだされている。今後その中からテーマをしぼっていくとともに、現在ホームページの「情報の森」にテーマ別に掲載している「ニュース&レポート」と「よもやま話」はそれぞれ統合し、幅広い情報を掲載できるよう充実・強化していく予定である。

桑理事から2月下旬に開催される「国際OEM・PB開発展」(主催:日本能率協会)で、2/22(木)に中越理事が45分のセミナーを担当する予定であることが紹介された。

○国内交流(東京デザイン会議)

桑理事から「2019年1月25日(金)に東京で開催するべく、セミナー会場の選定を行っている。第一候補としては銀座資生堂内の花椿ホールを考えているが、その後の交流会については、東日本委員会が担当している賀詞交歓会を交流会とするよう東日本委員会の伊藤副理事長、竹内理事と一緒に検討しているところである」との報告があった。

○国際交流(アスパック関連)

森理事から2017年のアスパックウィークに関して、JPDAの教育委員会、国内交流委員会、展覧会委員会、皆さんの多大なる協力により、大阪の展覧会も含めて無事終了できたことに対してのお礼の言葉があった。

- ・2017年は9カ国、22名の学生入賞者、11名の審査員が参加したが、関係者からは大変充実した内容であったと高い評価をいただいている。西日本委員会からも協力いただいた大

阪での展覧会終了後、作品は次の巡回展を予定しているインドネシアのジャカルタに着いたところである。昨年の作品はクオリティがあがった反面、地域色が若干薄れたきらいはあるが、多くの国から巡回展開催の希望があることは事実である。

2017年の全体の収支決算については3月の理事会で報告するようにしたい。

加藤理事長から「昨年は急遽JPDAの3つの委員会に協力をお願いした。今、終わってみて、2018年も継続していけるかどうか、教育委員会からはさきほど永田理事のコメントがあったが、他の委員会からも意見を聞いてみたい」との発言があった。

- ・桑理事からは、「昨年は初めてのこともありいろいろと大変だったが、2年目となる2018年はもっと楽にできると思う。反省会で委員から前回の課題について指摘させていただいたが、それも徐々に改善されていくことを期待している。

国内交流委員会としては2020年まではお引き受けするつもりである。但し、キックオフはできるだけ早めに行ってほしい」というコメントがあった。

- ・メインビジュアルを制作した牛島理事からは「ビジュアルイメージは決まったが、文章はまだ届いていないので、何も進んでいないのが現状。不安を感じている」というコメントがあった。
- ・展覧会の小川裕子理事は「2017年は思ったようにイケたなという感想。それは以前から中心となって活動していたGKの真野さん、ポーラの渡辺さんという、事情がわかった人たちがいたおかげと言える。したがって、展覧会委員の方々には何も依頼していない。2018年は同じようにしていきたいが、とにかく12月の創作展と時期がかぶらないようにしていただきたい。また、2020年も創作展とアスパックウィークが年の後半になると思うが、やはり時期的な問題が非常に不安である」という意見であった。
- ・永田理事からは「教育委員会だけでは今年と同じように協力していくことは難しいので、JPDAの他の委員会の協力も是非お願いしたい」というコメントが付け加えられた。

最後に加藤理事長から2018年も継続して協力体制をとることの確認があった他、伊藤副理事長からは、展覧会のように教育関連もアスパック協会の委員を決めてはどうかとの提言があった。

第8号議案 事務局報告

- ① 平成30年度事業予算集計状況と今後のスケジュール、及び、平成29年度事業収支決算の作成・承認に関するスケジュールについて

渡邊事務局長より以下の報告があった。

- ・今日次年度予算案の概略を説明した後、2月20日くらいまでに各委員会と調整を行い、最終案をまとめて3月の理事会に提案したい。そこで承認いただいたものを3月末までに内閣府に対してJPDAの最終案として報告する予定である。

それが終わった後、今期の決算書を作成し、4月9日（月）に内部監査を経て、4月の臨時理事会で確認し、5月末の総会で承認いただいたものを6月末までに内閣府に決算報告というスケジュールで進むことになる。

・平成30年度の予算案は資料を参照いただきたいが、JPDAの事業は1年毎に大きなイベントがあることから、前々年の平成28年度の予算・実績と比較する必要がある。まず収益を見ると28年度の予算・実績と比べて大きく減っているように見えるがこれはアスパックからの受取受託益が大きく影響しており、他の項目には大きな差は見られない。

・一方、費用面では、アスパックとの委受託契約では、かかった費用のみが収益となることから、28年と比較するとその分の費用が減っているにもかかわらず、30年の予算が増えているのは、各委員会から出された予算案を積み上げた結果が28年を上回っていることによる。委員会で30年の予算案が増えているのはインターネット、アーカイブ、コンペティション等である。

・28年、29年の予算での経常増減額をみていただくと、每期必ず若干プラスになるような予算を組んでいるが、30年度の予算では大幅なマイナスとなっているので、これから各委員会と調整しながらこれをプラスの方向にもっていくように努めたい。

② 小川（亮）理事からのご提案

・資料にあるように、インハウスデザイナー・法人のデザイン部門にベネフィットを感じていただき、法人会員になるメリットを感じさせるよう施策の提案であり、一方でJPDAにとっても収益があがるような仕組みとなるように考えていきたい。これらは教育事業の一環とも言えるものである。

・まず、JPDAが作る「アジアで最も充実したデザイン学校」とも言える新たな活動で、具体的には、デザイナー向けに2コース、ディレクター向けに1コース、経営者向けに1コースの4コースのセミナーを開催し、各コース終了後はJPDAから終了証書を発行するとか、協会の収益源にもなる「〇〇マスター」のような資格発行も検討していく。

・もう一つはインハウスデザイナーの合宿（単発）を開催して、インハウスデザイナー間の交流を深める機会が作れるような施策も平行して考えたい。

③ 広報記事の案内（JPDA、ASPaC）（資料参照）

第9号議案 次回理事会開催について

日時：平成30年3月14日（水）午後1時30分～5時00分

場所：文京シビックセンター（区民会議室）5階 会議室 A

東京メトロ丸の内線・南北線「後樂園」駅前